

こたふ

みつね

秋ふかみ戀する人のあかしかね夜をなが月といふにやあるらん

〔秘藏抄上〕十二月異名 九月ながづき略 〇中 いろどり月

〔莫傳抄〕十二月異名 菊開月 紅葉月 九月

〔藏玉和詞集〕十二月異名略 〇中 九鶉 紅葉月 小田刈月 ね覺月

〔妙法寺記下〕天文十八西己此年菊月四日略 〇下

〔伊呂波字類抄加象〕十月カミナツキ 律中應鐘

〔八雲御抄三上〕十月 かみなづき 出雲國には鎮祭月といふ

〔下學集上〕應鐘フシノリ十月 神無月カミナツキ十月諸神皆集出雲國神有月云也

〔書言字考節用集二候〕陽月カミナツキ十月カミナツキ於卦爲坤恐人疑其無陽故特謂之神無月本朝俗說見奥儀抄

〔二中歷五時〕月倭名 十月俗說云十月天下衆神輻湊出雲國而他國無神仍都鄙總無祓祭之禮故稱此月爲無神月今所謂カミナツキハ是カミナツキノ略也

〔奥義抄上末〕十月カミナツキ 天下のもろくの神出雲國にゆきてこと國に神なきがゆるるにかみなし月といふをあやまれり

〔世諺問答〕問て云十月を神無月と申は何のゆへにて侍るにや 答此月を神無月と申は伊弉册

尊崩給月なれば申なりまた四方の木葉ちりすさむ頃なりとて葉みな月と申人ありいとおぼ

つかなしまた諸神いづもの大やしろへ下給へば申ともいへり

〔東雅一文〕長月陽月のごときは漢にもふるくいひ傳へし所也其中陽月を讀てカミナツキとい

ひしはカミノツキといひしことば也たとへば萬葉集の歌に神邊山カミナツキと云るせしを讀てカミナ

ビヤマといふがごとし古語にはノといふは轉じてナとなりし事はいくらもあり水上のごと

きミノカミといふべきをミナカミといひ田上のごときタノカミといふべきをタナカミとい